

試験番号：IIJ-07-0047(1)

受付日：平成19年10月4日

枠組壁工法接合部の強度試験  
[あおり金物 STS160(L) /  
垂木・上枠，頭つなぎ接合部 / 引張試験]  
報 告 書

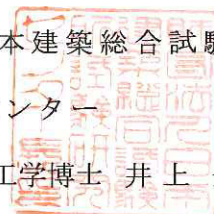
試験結果は、本報告のとおりであることを証明します。

平成20年 3月 6日

財団法人 日本建築総合試験所

試験研究センター

センター長 工学博士 井上 豊



技術管理者

構造要素試験室長

完山



試験名称	枠組壁工法接合部の強度試験 [あおり金物 STS160(L)/垂木・上枠, 頭つなぎ接合部/引張試験]	
依頼者 (所在地)	株式会社 カナイ (埼玉県八潮市西袋 717-1)	
試験実施日	平成 19 年 12 月 6 日	
試験体	形状・寸法	図-1.1
	接合金物 および 接合具	商品名 : あおり金物 STS160(L) 接合金物 : STS160(L) 【SGHC Z27 (JIS G 3302)】 接合具 : 太めくぎ ZN40 【SWM-N (JIS G 3532)】 形状・寸法 : 図-1.2
	試験体数	7 体 (うち 1 体は予備試験)
	備考	1. 試験体構成部材の仕様を表-1 に示す。 2. 試験体構成部材の加工および組立は依頼者により行われた。 3. 上記の図表および仕様は依頼者提出資料による。
試験方法	準拠基準	「2007 年枠組壁工法建築物 構造計算指針 (2007 年 11 月)、第 V 編 材料及び接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説、pp.235~276」((社)日本ツーバイフォー建築協会) に準じて試験を行った。ただし、載荷方法は「木造軸組工法住宅の許容応力度設計 (平成 14 年 6 月)、2 章 5.仕口、継手の評価方法、pp.151~152」((財) 日本住宅・木造技術センター) によった。
	試験装置	図-2
	載荷方法	予備載荷用試験体は単調引張載荷、本試験は一方向の繰返し引張載荷とした。繰返し載荷は、予備試験で得られた降伏変位 $\delta y$ の 1/2, 1, 2, 4, 6, 8, 12, 16 倍の順で各 1 回行った。
	試験体の設置方法	鋼製土台に、試験体の垂木を 500mm 間隔で固定した。
測定機器	荷重値の検出には 50kN ロードセルを用い、試験体各部の変位量の測定は、図-2 に示す位置に設置した変位計を用いた。	
試験結果	・試験結果の一覧 ----- 表-2 ・ $P-\delta$ 曲線の包絡線 (試験体相互の比較) ----- 図-3 上記試験結果中に示した記号の定義を [付録 1] に示す。	
	金物 1 個あたりの基準許容応力, 基準終局耐力および基準剛性 <b>基準許容応力(<math>P_{yo}</math>): 3.84kN</b> <b>基準終局耐力(<math>P_{uo}</math>): 6.40kN</b> <b>基準剛性(<math>K_o</math>): 1.35kN/mm</b> 基準許容応力, 基準終局耐力および基準剛性の算定方法を [付録 2] に示す。	
担当者	構造部 構造要素試験室 試験責任者 平井 義行 試験担当者 中尾 裕典	